

このあと沢はやや平凡となり、滝はかからなくなる。やがて、右俣出合。そしてそこから5分とかからないで今日目標中俣の出合である。中俣は、左俣に比べ出合はかなり貧弱である。ヤブをかきわけるようにして入り込むと、すぐナメが出てきた。そしてその後小滝が次々とかかる。1~3mの小さなものばかりであるが、中に1つ中俣最大の滝7mがあり、左岸を直登した。

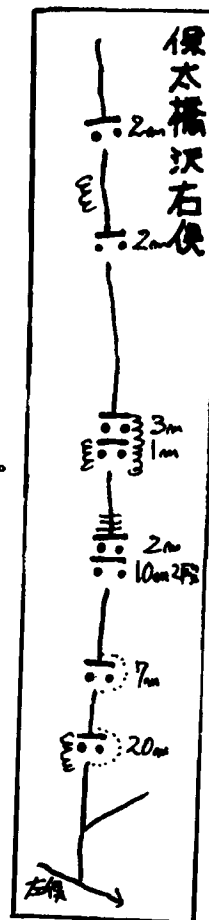
沢筋は急傾斜のまま、相変わらず小滝をかけながら続く。中にはよくみがかれていて、ちょっと手強い滝もあるが、落差が小さいために、いずれもそんなに苦勞することなく越えられる。中俣に入り込んで1時間40分、沢の傾斜がゆるやかになってブッシュで埋まり、源頭が見通せる場所に出て、遡行終了とする。あとは下降を予定している右俣めざし、左岸の尾根に登る。

(前)

[タイム] 保太橋沢出合(7:45)→中俣出合(10:45)→中俣終了(12:30)

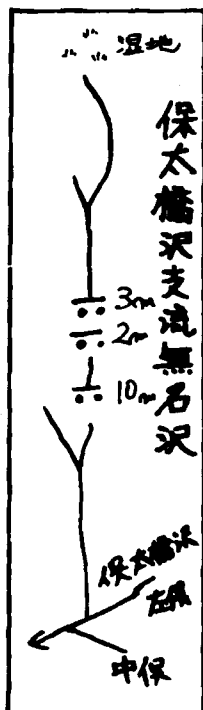
保太橋沢右俣

1992年9月12日



中俣との境の尾根から小沢ぞいに下降し、12時50分、下降開始。右俣は急傾斜の下りとなっているが、滝はかからない。何もないうまま30分ほど下ると、沢はトイ状の流れとなり小滝やC. S.滝がかかる。といっても通過に特に苦勞するわけではなく、右岸が楽に下れる。それでもこれは変化のきざしである。先が楽しみとなってきた。

やがて目の前が切れ落ちる。滝である。10m 2段。上段は左岸を、下段は右岸をクライミングダウンする。このあと7mの滝の左岸を捲いて下ると、いよいよこの沢最大の滝20m 4段滝である。左岸の岩尾根状の部分を下るが、上部は垂直に近い岩場を灌木に



ぶら下がる形の下りであった。

この下には滝はかからない。まもなく左岸から支沢が合流する。保太橋沢本流との出会はずぐそこであった。

[タイム] 右俣下降開始(12:50)→下降終了(14:25)

保太橋沢支流無名沢 1992年9月12日

保太橋沢中俣および右俣という今日の目標とした沢が終わったところで、1308mピーク西方のゴルに突き上げるこの支沢を撤退路として利用することとする。

平凡な沢筋が続く。遡行が目的なら不満だが、撤退路としては適当である。遡るにつれて沢筋がだんだん狭くなってゆく。

20分遡ったところで、滝が出てきた。せっかくの滝だからと、直登にかかる。10m程の滝で、割合楽に登れる。このあと小滝を2つ越えると、もう源頭である。湿原の左端を登り、5分ほどのヤブこぎで、尾根上の登山道(旧道)に出た。

[タイム] 遡行開始(14:40)→登山道(15:20)→小豆温泉(16:35)

保太橋沢支流ズタリ沢 1992年10月3日

6時30分、保太橋沢出合から遡行開始。3週間前保太橋沢を遡行したときに比べ、水量はかなり増えていた。30分でズタリ沢出合到着。ズタリ沢は、保太橋沢との出合に10m3段滝をかける。一番落差が大きい下段は右岸を直登し、あとは左岸を登る。登ると次に15m階段状の滝。そしてそのあとに5mと続く。15m階段状の滝は特に困難な所もなく通過。5mは左岸を直登する。このあとは小滝が連続するようになり、ぐんぐん高度を稼ぐ。いずれの滝も楽に越えることができ